岡崎嘉平太記念館 だより

Vol. 9
2008.7

嘉平太氏が出会った人々

藤井較一（ふじいかくいち）氏

▼安西四～大正一五年（一八五七～一九二六）海軍軍人（大将）、岡山県出身。日露戦争の日本海海戦には第二艦隊参謀長として参戦し、バルチック艦隊の進路について連合艦隊司令部などに作戦の変更を申し述べた。三笠艦上での将官会議にてそれが入れられて結果、海戦を勝利に導いた。

精義塾にて、三列目右から二人目岡崎氏
（大正9頃）　「岡崎嘉平太伝」より

藤井較一氏(明治38)
「岡崎嘉平太伝」より

―藤井較一海軍大将―

私は、岡山中学を終えて、東京へ出て、郷土の先輩の創設していた精義塾という学生の自治寮に入ったが、ここでは、「先輩訪問」ということが盛んに行なわれ、私も県出身の先輩を度々訪問して教えを受けたものである。藤井先生はそのころ、海軍大将(予備役)で青山に住んでおられ、私たち学生の訪問を快く迎えて、よく話をしてくださった。帰り際、玄関でお暇乞いをすると、きまったように、「今日は、若い者の話を聞いて大変愉快だった。またやってこい、この次はいつくるかね」と、次の訪問の日を、約束されることさえあった。私は、予（かね）てから、連合艦隊の首脳が練りに練ったであろう既定の作戦を変更し、日露戦争の勝利を決定的にした、藤井参謀長の進言の根拠は何であったろうかと、非常に興味を持っていたので、いつか機を見て、藤井先生にじかにおたずねしておきたいと思っていた。（中略）「先生が、もし作戦変更を進言されなかったならば、連合艦隊は津軽海峡に行き、その留守にバルチック艦隊はやすやすとウラジオに入ってしまったでしょう。そうなったとしたら、日露戦争の結果はどうなっていたか判らない。ほんとうに危機一髪のところで先生は大功績をあげられました。どうしてあのような判断をされましたのか、その根拠を後学のために教えていただきたいと思います」と大要このようなことを言った、と覚えている。そうしたら、藤井大将は功績ということばを気にされたのか、「いや、あれは功績というものではない、軍人はおかみからお手当をいただいて作戦の研究をしているのだから、当然のことである。手柄というべきものではない。」

これは、私にとってほんとうに驚くべきことばであった。軍人は戦場で手柄をたてて金鵄（きんし）勲章をもらうことを無上の光栄としている、と私はそのときまで思っていた。（中略）いまでも、老眼鏡を通して私を見すえられた先生の鋭い眼光に打たれたような思いがする。私は帰り道に、くりかえし「お手当を頂いて作戦を研究しているのだから当たり前のことだ、手柄というべきものではない」という先生の言葉の意味を自問自答しながら、「よし、自分も月給をもらうようになったら月給以上に働こう。働きが足りなかったら月給を返そう」と、ひそかに決したことであった。

岡崎嘉平太著『私の記録』（東方書店一九七九年発行）より

地球を救おう もったいない 作戦

みんなでざつ紙を集めて木を守ろう!

◀もったいないマーク

岡崎嘉平太氏と「もったいない」

嘉平太氏は、貯蓄増強中央委員会会長として、1957年から1971年までの14年間、全国津々浦々を回り、貯蓄の大切さを700回以上講演しています。『貯蓄行脚の体験を通して得た私の貯蓄哲学は、貯めることではなく省くことであった。則ち無駄をしない、浪費をしないである』と著書「私の記録」(東方書店)で述べられており、ご自身も使える物は常に生かして使い、誰もいない場所の電灯を消して回るなど、生涯身をもって『もったいない』を実践されています。また、世界や地球規模での広い視野で物事を考え、先見の明を持たれていました。

嘉平太氏がご存命であれば、地球温暖化防止へも取り組まれたであろう、と考え取り組みをはじめました。

各学校に配ったポスター

ざつ紙を集めよう!

ざつ紙50kgを古紙パルプに再生すると、30年成長した針葉樹を1本伐採せずにすみます。

分別を通して生活を見直し、また多くの恩恵を受けている森林を大切に守り育て、地球温暖化を防止したいです。

ざつ紙ってなに?

可燃ゴミとして焼却されてきた紙です

- ○包装紙・チラシ
- ○ティッシュや菓子や調味料等の食品の箱
- ○封筒・はがき
- ○色紙・画用紙

ただし次の紙は対象となりません。

- ×ティッシュペーパー
- ×写真　×感熱紙
- ×カーボン紙
- ×牛乳パック

取り組み

吉備中央町内の幼稚園、小・中学校等を回り取り組みのねらいや方法を話しました

↓

収集箱を希望数配り、ざつ紙を入れてもらいます

↓

坂田とも子さん(岡山県地球温暖化防止推進委員)が収集して回っています

※きびプラザ敷地内の倉庫でも預かれます

製紙会社での再生

古紙をばらばらの繊維にほぐす

▼

ホッチキスなど異物を取り除く

▼

インクを抜く

こうして「古紙パルプ」がつくられ、このパルプをそのまま使って、あるいは、新しいパルプと混ぜて、新たに紙を漉きます。再生される紙により、原料となる古紙が異なり、また、高炉も違います。したがって古紙を再利用するには分別が前提になるのです。

今年も来てくださいました！

岡崎嘉平太国際奨学財団

平成20年5月30日(土)・31日(日)

Aung Kyaw Soeさん(ミャンマー)
劉紅さん(中国)
Lidyawatiさん(インドネシア)
張涵さん(中国)

大和小学校４年生と交流

私の青空 岡山空港
「岡崎嘉平太の森」
植樹活動の様子

石井岡山県知事と挨拶

「私の青空　岡山空港・岡崎嘉平太の森」は、岡山空港開港20周年の記念として、5月31日（日）にＡＮＡ主催で行われました。

豊かな森林の再生をめざし，岡山空港に程近い高梁市の市有林に約350名ものボランティアが，岡崎嘉平太国際奨学財団の奨学生4名と共にアラカシの苗木を約2,400本を植樹しました。

第二回

嘉平太が愛したふるさと岡山　心なごむ風景 写 真 展

入賞者のみなさん(表彰式にて)

本年6月11日（水）から7月30日（水）まで、「嘉平太が愛したふるさと岡山　心なごむ風景　写真展」を開催しています。

嘉平太氏が愛した故郷・岡山に残る豊かな自然や心なごむ情景を多くの人と共有し、後世に伝えたいとの考えから企画しました。

99点の応募があり、6月22日（日）に表彰式を行いました。

嘉平太さんものしりトピックス

嘉平太さんは、貯蓄増強中央委員会の会長を頼まれ、貯蓄の大切さを14年間で全国を700回以上講演して回りました。自ら先頭に立って、「相手がひとりであっても話し合い」を心がけ、地方に出かけ、貯蓄を実行している人々に会って、教えを受けたことが、とても勉強になったと言っておられます。そのなかで、心の温まる話をいろいろ聞かれて、必要な消費はケチらずエネルギーや資源の無駄づかいをやめ貯蓄をすれば、日本人の考えや行いがよくなるのでは、と考えておられました。

貯蓄増強中央委員会を退任した時の記念に贈られた大皿（昭和46年）。嘉平太氏が講演に訪れた所に赤い●印があります。全国津々浦々回ったことがわかります。

子供たちと貯蓄問題を話し合う
（「岡崎嘉平太伝より」）

ざつ紙リサイクル学習会

平成20年7月19日（土）小六明和製紙原料社長のリサイクルのお話と、紙すき実験やクイズ大会などを、こどもたちと楽しみたいと思います！

記念館の公式サイトが新しくなりました

◆新しいメールアドレス

okmh@okazaki-kaheita.jp

◆新しいURL

http://www.okazaki-kaheita.jp

編集・発行：岡崎嘉平太記念館
〒716-1241 加賀郡吉備中央町吉川4860-6 きびプラザ内
TEL 0866-56-9033　FAX 0866-56-9066
ホームページ http://www.okazaki-kaheita.jp
Eメール okmh@okazaki-kaheita.jp